総合教育センターだより

# 街路樹

発行 第 ５０ 号
平成23年 2月25日(金)
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町1-4
0246(22)3705

## 学力向上に向けて 40

**～子どもの心に灯をつける教師をめざして～**

教育ジャーナル(2011,1月号)に掲載された記事を紹介します。

校内研究の体制や授業研究の実施体制等、校内研究等の取組みと教員間のコミュニケーションの状況や授業の水準等との連関について
『国研校内研究等の実施状況に関する調査』より

**小学校⇒研究内容を深めるための取組が学校の質に影響する**
- ○ 研究テーマに即して、部会を設定すること
- ○ 個人で研究テーマを設定すること
- ○ 研究のまとめを毎年作成すること
- ○ 年間スケジュールを前年度に策定すること

**中学校⇒校内研究への組織的な取組が学校の質に影響する**
- ○ 校内研究のための全校組織を設置すること
- ○ 学校として一つの研究テーマを設定していること

**教師の力量を高めるには現職教育、しかも、校内研究・授業研究に焦点を当てるのが最も効果的である。 (解説:千々布敏弥先生)**

さらに、「教員は『先輩とのやりとりや校内研究への取り組み』が本人の力量向上に役立っている」との結果もでているということです。教員の力量を高めるために、是非参考にしたいものです。

さて、教職員の資質向上に向けた今年度の研修も、研修主任研修 (2月10日)をもって終了しました。参加者総数はのべ5,584名と数多くの先生方に受講していただきました。研修後には、「教材研究の進め方がよく分かった。模擬授業をすることで、自分の課題が明確になった。」等の感想も多くあり、授業改善に向けて教職員の意欲の向上につながったものと考えています。しかし、一方では、それらの研修の成果が個人の実践でとまり、学校内に波及していか ないという課題も残されています。

これらをふまえ次年度の研修では、次のような点を重点事項とし計画しました。(※詳しくは平成23年度教職員研修計画をご覧ください。)

○ 教職員のライフステージに応じてキャリアアップを図れるように体系化することとし、平成23年度は教科・生徒指導研修の内容等を工夫する。

本市の子どもの心に灯をつける教師をめざして、さらに学校と協働してまいりたいと考えております。

## 授業改善・指導技術 31

**～ 話すこと・聞くことの基礎・基本を育てる ～**

**1「なにを」「なんのために」話すかをはっきりさせる**

話すことを奨励すると、人の意見をよく聞かず自分の言うことをよくまとめないで、なんでも思ったことをしゃべるようになりやすい。これは、聞き方の欠陥からくるもので、「なんのために」「なにを」話すかの指導が不足しているからである。

**2 話す力をつけるもとは、聞くことである**

話し言葉の教育は、聞き方との連携が必要である、よく聞く子と聞き方のへたな子とでは、発言内容にちがいがでてくる。話す力をつけるもとは、聞くことである。

**3 話し方指導上の留意点**

おしゃべりと話すことは同じではない。話は、話すべきときに話すのがよいこと。必要なことを選んで話し、不必要なことを話さないように心がけさせたい。

**4 聞き方指導上の留意点**

聞くことは、話す活動に比べると受け身の働きのように考えられるが、そうではなく、自主的・積極的・主体的な働きである。「聞こえる」「聞かされる」は、自らの意志で進んで聞くことではないが、「聞く」ということは、意識を集中して耳を傾けて聞くことであり、積極的な内容といえる。

※ 「聞く」指導では
- ○内容の大体を聞き取る ○順序を考えながら聞き取る
- ○要点を聞き取る ○中心点を聞き取る
- ○自分の考えと比べながら聞く

―話し合い・聞き合い・学び合い(東洋館出版)より―

## 学級経営のヒント 29

**～ 学級経営の評価 ・・・新年度に向けて ～**

学級は、子どもにとって学力向上や人間形成の大切な場であり、学級という集団への所属感を安心してもつことのできる場である。学級は、意欲と希望に満ちた子どもたちに満足感を与えなければならない。4月、新しい学級へ登校してくる子どもたちを迎えるにあたって、今年度の学級経営を振り返り、新年度に生かすよう、チェックしてみてはどうでしょうか。

**例**

- □ 学級経営計画を立て、利用活用したか。
- □ 学級目標は、学校教育目標、学年目標との関連が図られ、子どもの実態を踏まえて立てられていたか。
- □ 個々の子どもを理解する努力〔一般的理解(発達段階)、客観的理解(観察・検査・調査等)、共感的理解(子どもの立場に立って)〕をし、指導にあたることができたか。
- □ 個々の子どもの特徴、問題点、家庭環境、家庭生活状況等を把握していたか。
- □ 学級集団の構造を客観的に把握し、リーダーや孤立・排斥されている子どもの指導を適切に行ったか。
- □ 心身に悩みを持つ子どもに対して適切に指導できたか。
- □ 子どもとのふれあいの時間を多く持つことができたか。
- □ 子どもと教師、子ども同士の信頼関係を築けたか。
- □ 係活動や当番活動等が機能する指導ができたか。
- □ 認め合い支え合う学級の風土づくりができたか。
- □ 行事や朝会などの意義を意識して事前・事後指導できたか。
- □ 学年と連携し、教育効果を高めることができたか。
- □ 学習習慣(学校、家庭)を確立する工夫をしたか。
- □ 学習規律、生活規律の仕方を工夫し、成果があったか。
- □ よく整理、工夫され、子どもの成長変化と健康安全に配慮した教室環境になっていたか。
- □ 掲示物の内容と時期を考慮し、学習・生活の意欲化が図られる教室環境になっていたか。
- □ 家庭訪問や個人面談等を行い、子どもの状況をよく把握し、指導にあたっていたか。
- □ 学級だよりを発行するなどして、学校や学級の様子を伝えたり、計画的な指導や個別的な指導の結果を伝えたり、家庭との連携に努めたか。
- □ 授業参観や保護者会運営を工夫したか。
- □ 子を思う親心を理解し、誠意を持ち保護者対応ができたか。
- □ 学級事務を効果的・能率的に処理するとともに、個人情報を慎重に扱うことができたか。
- □ 子どもたちのモデルとなる魅力ある教師になるよう努めたか。

**※ 学級経営のヒント 1 ～ 28 を役立てていただけると幸いです。**